

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東北財務局長

【提出日】 平成21年11月13日

【四半期会計期間】 第40期第2四半期(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

【会社名】 株式会社幸楽苑

【英訳名】 KOURAKUEN CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 新井田 傳

【本店の所在の場所】 福島県郡山市田村町金屋字川久保1番地1
(同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記で行っております。)

【電話番号】 024(943)3351(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 久保田 祐一

【最寄りの連絡場所】 福島県郡山市田村町上行合字北川田2番地1

【電話番号】 024(943)3368

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 久保田 祐一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第39期 第2四半期連結 累計期間	第40期 第2四半期連結 累計期間	第39期 第2四半期連結 会計期間	第40期 第2四半期連結 会計期間	第39期
会計期間		自 平成20年 4月1日 至 平成20年 9月30日	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 9月30日	自 平成20年 7月1日 至 平成20年 9月30日	自 平成21年 7月1日 至 平成21年 9月30日	自 平成20年 4月1日 至 平成21年 3月31日
売上高	(千円)	17,138,828	17,808,358	8,831,048	9,412,312	34,264,793
経常利益	(千円)	917,982	1,324,763	676,902	951,184	1,738,038
四半期(当期)純利益	(千円)	379,925	688,436	267,288	506,901	519,573
純資産額	(千円)			8,433,411	8,934,887	8,409,295
総資産額	(千円)			19,732,456	21,493,400	21,452,444
1株当たり純資産額	(円)			516.22	547.19	514.79
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	23.37	42.35	16.44	31.18	31.96
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	22.23				31.16
自己資本比率	(%)			42.52	41.38	39.00
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	777,109	1,331,959			1,699,035
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,060,494	1,098,192			712,026
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,714,469	1,111,367			1,068,822
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)			1,466,769	1,808,273	2,685,874
従業員数	(名)			1,020	1,123	1,026

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第39期第2四半期連結会計期間、第40期第2四半期連結累計期間及び第40期第2四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）にて営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成21年9月30日現在

従業員数(名)	1,123 (3,453)
---------	---------------

(注) 1 従業員数は、就業人員であります。

2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の当第2四半期連結会計期間の平均雇用人員(1日7.75時間換算)であります。

(2) 提出会社の状況

平成21年9月30日現在

従業員数(名)	1,119 (3,452)
---------	---------------

(注) 1 従業員数は、就業人員であります。

2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の当第2四半期会計期間の平均雇用人員(1日7.75時間換算)であります。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額(千円)	前年同四半期比(%)
ラーメン事業	1,308,322	17.9
その他外食事業		
その他の事業		
合計	1,308,322	17.9

- (注) 1 上記の金額は、製造原価で表示しております。
2 金額の記載については、消費税等抜きで表示しております。

(2) 受注実績

当社は店舗の売上計画に基づき見込生産を行っておりますので、該当事項はありません。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額(千円)	前年同四半期比(%)
ラーメン事業	9,320,943	6.6
その他外食事業	73,400	9.7
その他の事業	17,968	32.2
合計	9,412,312	6.5

- (注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。
2 主要顧客(総販売実績に対する割合が10%以上)に該当するものではありません。
3 直営店売上についての地域別販売実績は、次のとおりであります。

地域別	金額(千円)	前年同四半期比(%)
福島県	853,465	3.2
宮城県	839,430	7.4
山形県	222,713	3.1
栃木県	447,683	19.3
新潟県	260,382	24.4
茨城県	669,592	9.0
群馬県	223,735	11.4
埼玉県	943,160	2.8
千葉県	854,208	3.8
東京都	636,016	1.0
神奈川県	526,956	4.4
秋田県	211,099	10.0
静岡県	416,173	8.6
山梨県	132,133	26.4
愛知県	574,951	6.0
三重県	164,932	2.8
岐阜県	149,958	7.3
長野県	164,262	3.5
京都府	17,869	21.7
滋賀県	58,066	25.4
大阪府	157,494	2.5
奈良県	29,150	19.2
石川県	11,954	64.4
富山県	63,032	7.6
兵庫県	146,215	6.7
岩手県	106,350	32.1
青森県	139,766	22.7
福井県	69,596	17.3
和歌山県	7,162	0.2
合計	9,097,515	6.6

- 4 金額の記載については、消費税等抜きで表示しております。

2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、事業等のリスクについて新たに生じた重要な事項及び重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結会計期間におけるわが国の経済は、一部の景況判断で下げ止まりの兆しが見られるものの、依然として世界的な景気後退の影響を受け、停滞感の強い状況で推移いたしました。また、企業業績の悪化による雇用や所得に対する先行き不安から、消費マインドが低迷し、個人消費も低調に推移いたしました。

外食産業におきましても、景気停滞による生活防衛意識の高まりや新型インフルエンザの影響から外食機会が減少する一方で、オーバーストアによる競合他社との競争も激化しており、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中で、当社グループは、より安く・よりおいしい商品提供により顧客満足度を高め、既存店客数前年比を回復させることを最重要課題とし、低価格戦略を継続するとともに店舗QSCレベル向上に取り組んでまいりました。また、収益性及び利益率の改善に向けた諸施策を推進してまいりました。

この結果、当第2四半期連結会計期間の業績につきましては、売上高は9,412百万円（前年同四半期比6.5%増）の増収となり、営業利益は944百万円（同36.5%増）、経常利益は951百万円（同40.5%増）、四半期純利益は506百万円（同89.6%増）と大幅な増益となりました。

また、当第2四半期連結会計期間末のグループ店舗数は425店舗（前年同四半期比4店舗増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであり、金額についてはセグメント間の内部売上高又は振替高を含んで表示しております。

ラーメン事業

ラーメン事業においては、店舗QSCレベル向上による既存店客数の回復に全社を挙げて取り組んでまいりました。まず、店舗従業員に対する調理資格制度（マイスター制度）を導入し、各種マイスター取得者を計画的に育成することで、主力商品（らーめん・ギョーザ・チャーハン）の品質向上に繋げております。当第2四半期連結会計期間末において、ギョーザマイスター約5,500名、チャーハンマイスター約2,000名を育成しており、麺マイスターの育成にも着手しております。また、ホール担当者ごとの優先作業順位を明確化する等により、サービスレベル向上と商品提供時間短縮・客席回転率向上を目的としたサービスオペレーションの見直しも進めております。

さらに、創業価格フェア（焼ギョーザ105円セール）の実施や、関西・東海地区を中心とした西日本地区においてランチメニューを導入する等、地域・店舗特性に応じた販売促進やメニュー開発・導入を実施し、知名度向上による新規顧客の獲得に努めてまいりました。

これらの対策を推進するにあたっては、当期より従業員満足度向上・待遇改善の一環として実施した管理職（店長以上）年収底上げの効果が、従業員のモチベーションアップという形で大きく貢献しております。この結果、当第2四半期連結会計期間における直営既存店は、売上高前年同期比4.7%の増加、客数前年同期比5.5%の増加となりました。

店舗展開につきましては、既存店の立て直しを重視していることから、当期は新規出店数を抑制する計画になっており、当第2四半期連結会計期間においては、新規に直営店「幸楽苑」2店舗、地域別には茨城県及び千葉県へ各1店舗を出店いたしました。また、スクラップを直営店3店舗で実施いたしました。この結果、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、直営店397店舗、フランチャイズ加盟店25店舗の合計店舗数422店舗（前年同四半期比4店舗増）となり、業態別には「幸楽苑」422店舗となりました。

生産設備関連では、京都工場（京都府京田辺市）において新たにチャーハン生産ラインを稼働させ、店舗への自社製品導入を順次進め、当第2四半期連結会計期間末においてほぼ全店への導入を完了しております。これにより、主要食材となる麺・ギョーザ・チャーハンが内製化されることになり、味・品質における同業他社との差別化を可能にするとともに、大幅な原価低減に繋げております。

この結果、売上高は9,320百万円（前年同四半期比6.6%増）となり、営業利益は1,217百万円（同16.9%増）となりました。

その他外食事業

その他外食事業においては、うどん及び和食に特化し、来店頻度の向上と利益率の改善に努めてまいりました。また、2010年1月を目処に1店舗をハンバーグ業態へ転換することとして準備を進めております。

店舗展開につきましては、新規出店を抑制しており、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、直営店3店舗、業態別には「和風厨房伝八」3店舗となっております。

この結果、売上高は73百万円（前年同四半期比9.7%減）となり、ハンバーグ業態転換に向けての調査・準備費用が発生したことから営業損失が10百万円（前年同四半期は、営業利益5百万円）となりました。

その他の事業

その他の事業は、建築施工管理及び厨房機器等の販売、損害保険及び生命保険の代理店業務、広告代理店業務からなっております。

グループ内の販売促進活動の強化により、広告代理店業務の売上高が増加したことから、売上高は129百万円（前年同四半期比80.6%増）となり、営業利益は16百万円（同154.8%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて3.7%増加し、4,184百万円となりました。これは、現金及び預金が62百万円、たな卸資産が78百万円それぞれ増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて0.6%減少し、17,309百万円となりました。これは、リース資産が165百万円増加したものの、建設協力金が129百万円、建物が52百万円それぞれ減少したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて0.1%増加し、21,493百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて5.0%増加し、7,121百万円となりました。これは、買掛金が261百万円、未払法人税等が110百万円それぞれ増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて13.1%減少し、5,436百万円となりました。これは、長期借入金が825百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて3.7%減少し、12,558百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて6.2%増加し、8,934百万円となりました。これは、主に利益剰余金が525百万円増加したことなどによります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、当第1四半期連結会計期間末に比べ862百万円（91.1%）増加し、1,808百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、前年同四半期に比べ625百万円(73.9%)増加し、1,472百万円となりました。

収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益925百万円、仕入債務の増加額334百万円であり、支出の主な内訳は、その他の負債の減少額187百万円、たな卸資産の増加額45百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、前年同四半期に比べ272百万円(99.5%)減少し、1百万円となりました。

収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入100百万円、建設協力金の回収による収入74百万円であり、支出の主の内訳は、建設協力金の支払による支出72百万円、定期預金の預入による支出63百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、前年同四半期に比べ777百万円(56.1%)減少し、608百万円となりました。

これは、主に長期借入金の返済による支出580百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が対処すべき課題について、重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等は次のとおりであります。

当社グループは、平成21年5月14日開催の取締役会において、「当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」(以下、「会社の支配に関する基本方針」といいます。)に基づき、当社の企業価値及び株主共同の利益を確保・向上するため、買収防衛策の内容一部変更及び導入継続を目的とした「当社株式等の大規模買付行為に関する対応策(買収防衛策)の導入継続」(以下、「本対応策」といいます。)について決議し、平成21年6月17日開催の当社第39期定時株主総会における承認を得て導入継続されました。

会社の支配に関する基本方針の内容

当社は昭和29年の創業以来、個々人で嗜好が分かれるため全国展開は難しいと考えられていたラーメンを、誰にでも親しめる日常食の「らーめん」ととらえることでチェーンストア化を図った結果、全国28都府県に401店舗出店(平成20年3月末日現在)し、平成19年2月の京都工場の新設で、グループ1,000店舗体制を供給面で確保すると同時に関西以西への足場を築きました。このように当社が成長してこられたのも、数多くの株主の皆様方、投資家の方々、お客様、お取引先、従業員等々のご支援の賜物であると感謝するとともに、今後も成長を持続させることで皆様方との共栄を祈念するものです。当社が皆様方からこれまでのご支援をいただいたのも、当社の経営理念・当社の企業価値・当社が目指して来た皆様方との関係構築が皆様方に評価・賛同をいただいたからと考えております。

当社のこの様な来歴を鑑み、当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、当社の企業理念、当社の企業価値の源泉、当社のステークホルダーの方々との信頼関係を理解し、当社の企業価値及び株主共同の利益を中長期的に確保・向上させる者でなければならぬと考えております。

会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組み

当社では、当社の企業価値及び株主共同の利益を向上させるため、次の様な取組みを実施しております。

当社グループは、当社の企業価値の源泉をさらに高めるため、平成21年3月期を初年度とする3カ年の中期経営計画を策定し、その実現に向けてグループ全社を挙げて取り組んでおります。

この中期経営計画の経営方針は、

イ チェーンストア経営を目指し、直営店を基本とした多店舗展開を推進する。

中期目標として2年以内に500店舗、長期目標として10年以内に1,000店舗達成を目指す。

ロ 集中出店によりドミナント・エリアを確立する。

新たな出店形態の開発を強化し、さらにドミナント・エリアを確立する。

ハ ニーズに合った商品を提供する。

出店エリアや出店形態に合わせた商品を開発する。

ニ 内製化比率を向上させ、原価低減を図る。

自社製造工場の稼働率向上と自社内加工製品の拡充。

ホ 人材確保・育成システムの充実を図る。

グループ1,000店舗体制に向け、労働力の確保・女性の社会進出の一環として、パートナーからの正社員登用・女性店長の育成を積極的に実施するとともに、キャリア・キープ制度（女性社員の出産・育児後の職場復帰制度）等の導入を図り、労働環境を改善し、人材の確保に努める。

また、長期数値目標値として、経常利益率10%、投下資本利益率（ROI）20%以上、自己資本利益率（ROE）10%以上を掲げ、経営効率の改善に努めてまいります。また、このような施策をより機動的かつ効率的に推し進めていくことにより、社会のインフラ企業（『幸楽苑があって良かった』、『幸楽苑がないと困る』）として認められることが、当社グループの企業価値の源泉をさらに高め、ひいては株主の皆様をはじめとするあらゆるステークホルダーの利益につながると確信しております。

本対応策の内容（会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針が決定されることを防止するための取組み）

イ 本対応策の対象となる当社株式の買付

本対応策の対象となる当社株式の買付とは、特定株主グループの保有割合を20%以上とすることを目的とする当社株式等の買付行為、結果として特定株主グループの保有割合が20%以上となる当社株式等の買付行為、または既に20%以上を所有する特定株主グループによる当社株式等の買増行為（いずれについても買付、買増の方法の如何は問いませんが、あらかじめ当社取締役会が同意したものを除きます。このような買付行為を「大規模買付行為」といい、大規模買付行為を行うものを「大規模買付者」といいます。）とします。

ロ 大規模買付ルールの内容

大規模買付ルールとは、大規模買付行為に先立ち、事前に大規模買付者が当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、当社取締役会による一定の評価期間が経過し、当社取締役会の評価内容・意見を株主の皆様へ開示した後、初めて大規模買付行為を開始することを認めるというものです。大規模買付ルールの概要は次のとおりです。

a 意向表明書の当社への事前提出

大規模買付者が大規模買付行為を行おうとする場合には、まず当社取締役会宛に、日本語で記載された「意向表明書」を提出していただきます。当該意向表明書には、大規模買付者の名称、住所、設立準拠法、代表者の氏名、国内連絡先及び提案する大規模買付行為の概要並びに大規模買付ルールに従う旨の誓約を記載し、提出していただきます。

b 大規模買付情報の提供

当社はこの意向表明書の受領後10営業日以内に、大規模買付者から当社取締役会に対して、当社の株主の皆様ご判断及び当社取締役会としての意見形成のために必要かつ十分な日本語で記載された情報（以下、「大規模買付情報」といいます。）の提出を求めます。

大規模買付情報の具体的内容は、大規模買付者の属性及び大規模買付行為の内容によって異なりますが、情報提出依頼項目の主要なものは次のとおりです。

- 1) 大規模買付者及びそのグループ（共同保有者、特別関係者及び各組合員（ファンドの場合）その他の構成員を含む。）の詳細（具体的名称、資本構成、財産内容等を含む。）
- 2) 大規模買付の目的、方法及び内容（買付の対価の価額・種類、買付の時期、買付等の方法の適法性、買付等の実行の蓋然性等を含む。）
- 3) 大規模買付の対価の価額の算定根拠（算定の前提事実、算定方法、算定に用いた数値情報）
- 4) 大規模買付の資金の裏付け（資金の提供者（実質的提供者を含む。）の具体的名称、調達方法、関連する取引の内容）
- 5) 大規模買付行為により当社及び当社のステークホルダーに生じることが予想されるシナジーの内容
- 6) 大規模買付者が当社取締役会に提案する当社及び当社グループの経営方針、事業計画、資本政策及び配当政策
- 7) 大規模買付の後における当社及び当社グループの従業員、取引先、顧客その他の当社に係る利害関係者の処遇方針

なお、当初提出いただいた情報を精査した結果、当該大規模買付提案の内容・効果を、株主の皆様及び当社取締役会が理解する上で不十分と認められる場合には、当社取締役会は大規模買付者に対して大規模買付情報が揃うまで追加的に情報提供を求めます。また、大規模買付行為の提案があった事実については速やかに開示します。また、当社取締役会に提案された大規模買付情報、当社取締役会の当該大規模買付提案への評価内容等は、当社株主の皆様ご判断の必要性を考慮し適宜開示いたします。

c 取締役会による評価期間

当社取締役会は、大規模買付行為の評価の難易度に応じ大規模買付者が当社取締役会に対し大規模買付情報の提供を完了した後、60日以内（対価を現金（円貨）のみとする買付の場合）または90日以内（その他の対価の場合）を当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間（以下、「取締役会評価期間」といいます。）として設定します。当社取締役会は、大規模買付情報の提供が完了したと判断した場合には、速やかにその旨及び取締役会評価期間が満了する日を公表いたします。

取締役会評価期間中、当社取締役会は後記二. aに記載する独立委員会による勧告を受ける他、適宜必要に応じて外部専門家の助言を受けながら提供された大規模買付情報を十分に評価・検討し、当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、開示します。また必要に応じて大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉する事も想定されますし、当社取締役会として株主の皆様に対し代替案を提示することもあります。

八 大規模買付行為がなされた場合の対応

a 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、大規模買付行為に対する後記bのケースの様な対抗措置は講じません。

仮に当社取締役会が当該大規模買付行為に反対であった場合も、当該買付提案についての反対意見を表明し、代替案の提示を行うことも想定されますが、株主の皆様が大規模買付者の買付提案に応じるか否かは、当該買付提案及び当社が提示する当該買付提案に対する意見や代替案をご検討の上、株主の皆様ご自身にご判断いただくこととなります。

ただし、大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、当該大規模買付行為が当社の企業価値及び株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、当社取締役会は例外的に当社株主の皆様を守るために適切と判断する対抗措置を講じることがあります。大規模買付行為が当社企業価値及び当社株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合とは、具体的には次の1)から2)の類型に該当するケースです。

1) 次に掲げる行為により、当社の企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付である場合

株式を買い占め、その株式につき当社または当社関係者に対して高値で買取を要求する行為

当社の経営を一時的に支配して、経営に必要な資産、知的財産、ノウハウ、企業秘密情報、主要取引先や顧客などを大規模買付者、その他等に移譲させる目的で行われる行為

当社の資産を買付者等やそのグループ会社等の債務の担保や弁済原資として流用する行為

当社の経営を一時的に支配して、当社の事業に当面関係していない資産等を処分させ、その処分利益をもって一時的な配当をさせるか、一時的配当による株価の急上昇の機会を狙って高値で売り抜ける行為

2) 強圧的二段階買付等株主に株式の売却を事実上強要するおそれのある買付である場合

b 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかった場合には、当社取締役会は、当社の企業価値及び株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の無償割当等、会社法その他の法令により認められる措置（以下、「対抗措置」といいます。）を講じ、大規模買付行為に対抗する場合があります。具体的な対抗措置については、その時点で適切と当社取締役会が判断したものを選択することとなります。

二 対抗措置の合理性及び公平性を担保するための制度及び手続き

a 独立委員会の設置

大規模買付ルールに則って一連の手続きが進行されたか否か、あるいは大規模買付ルールが遵守された場合でも、大規模買付行為が当社の企業価値及び株主共同の利益を著しく損なうものであることを理由として対抗措置を講じるか否かについては、当社取締役会が最終的な判断を行います。本対応策を適正に運用し、当社取締役会による恣意的な判断がなされることを防止し、その判断の客観性及び合理性を担保するために、独立委員会規程を定め、独立委員会を設置することといたします。独立委員会の委員は3名以上とし、公正で中立的な判断を可能とするため、当社の業務執行を行う経営陣から独立している社外監査役、または社外有識者等から選任します。

b 対抗措置発動の手続

前記八. a に記載のとおり大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、当該大規模買付行為に対する対抗措置は講じません。

一方、前記八. b に記載のとおり対抗措置をとる場合、並びに前記八. a ただし書きの記載に基づき例外的に対抗措置をとる場合には、その合理性・客観性を担保するために、当社取締役会は、独立委員会に対し対抗措置の具体的な内容及びその発動の是非について諮問するものとします。独立委員会は、大規模買付情報の内容等を十分勘案した上で対抗措置の内容及びその発動の是非について前記ロ. c の取締役会評価期間の期限の遅くとも7日前までに当社取締役会に対して勧告を行うものとします。

当社取締役会は、対抗措置を講じるか否かの判断に際して、独立委員会の勧告を最大限尊重するものとします。

なお、当社が対抗措置を講じるか否かの判断を決定した場合は、その内容を独立委員会の勧告内容と併せて株主の皆様にも速やかに開示いたします。

c 対抗措置発動の停止等について

上記bに従い、当社取締役会が具体的対抗措置を講ずることを決定した後、当該大規模買付者が大規模買付行為の撤回または変更を行った場合など対抗措置の発動が適切ではないと当社取締役会が判断した場合には、あらためて独立委員会に諮問し、対抗措置の発動の停止または変更などを行うことがあります。例えば対抗措置として新株予約権の無償割当を行う場合、当社取締役会において無償割当が決議され、または、無償割当が行われた後においても、大規模買付者が大規模買付行為の撤回または変更を行うなどの理由により当初予定していた対抗措置の発動が適切でないとして当社取締役会が判断した場合には、新株予約権の行使期間開始までの間は、独立委員会の勧告を受けた上で、無償割当の中止、または無償割当後においては、当該新株予約権を当社が無償取得することより対抗措置の停止を行うことができるものとします。(なお、上記のとおり、当該新株予約権を当社が無償取得した場合、当社は、同新株予約権を速やかに消却いたします。)

このような対抗措置の停止または変更を行う場合は、速やかに開示いたします。

d 取締役の行動規範

取締役会は、大規模買付ルールを適用するに当たり、行動規範として次の各項を遵守します。

- ・取締役会は、大規模買付ルールの公正な適用に努めます。
- ・取締役会は、大規模買付者からの大規模買付提案を真摯に検討します。
- ・取締役会は、大規模買付者との交渉は真摯に行います。
- ・取締役会は、大規模買付行為に関する一連の過程を適時適切に開示し、取締役会としての意見、評価または判断を付し、株主に対する説明責任を果たします。
- ・取締役会は、独立委員会の独立性を実質的に担保します。
- ・取締役会は、取締役会が下した判断に対し、最終的な責任を負います。

ホ 本対応策が株主及び投資家の皆様に与える影響

a 大規模買付ルールが株主及び投資家の皆様に与える影響

大規模買付ルールは、当社の株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かを判断するために必要な情報を提供し、株主の皆様が当社取締役会が提示する代替案等を検討する機会を留保することを目的としております。これにより株主の皆様は、十分な情報のもとで、大規模買付行為に応じるか否かについて適切に判断していただくことが可能となります。大規模買付ルールは、株主及び投資家の皆様が適切な投資判断を行う上での前提となるものであり、株主の皆様の共同の利益の確保に資するものと考えております。

なお、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守するか否かにより大規模買付行為に対する当社の対応が異なりますので、株主及び投資家の皆様におかれましては、大規模買付者の動向及び本対応策に基づく当社の開示情報にご注意下さい。

b 対抗措置発動時に株主及び投資家の皆様に与える影響

当社取締役会は、当社の企業価値及び株主共同の利益を守ることを目的として前記八のとおり対抗措置を講じることがありますが、当社取締役会が具体的な対抗措置を講じることが決定した場合、適用ある法令、当社が上場する東京証券取引所の上場規則に従って、適時適切な開示を行います。

対抗措置として新株予約権の無償割当が行われる場合には、割当期日における株主の皆様は、その保有する株式数に応じて無償で新株予約権の割当を受けることとなります。その後当社が新株予約権の取得の手続きを取る場合には、大規模買付者等以外の株主の皆様は、当社による新株予約権の取得の対価として当社株式を受領する為に格別の不利益は発生しません。ただし、割当期日において当社の最終の株主名簿に記載または記録されていない株主の皆様に関しましては、他の株主の皆様が当該新株予約権の無償割当を受け、当該新株予約権と引換えに当社株式を受領されることに比して、結果的にその法的権利または経済的側面において不利益が発生する可能性があります。

なお、独立委員会の勧告に基づく当社取締役会の決定により、当社が当該新株予約権の割当中止、当該新株予約権の発行の中止、発行した新株予約権の無償取得を行う場合、及び当該新株予約権の発行差止の決定がなされた場合には、1株あたりの株式の価値の希薄化は生じませんが、上記のような場合に、当該新株予約権の無償割当を受けるべき株主が確定した後（権利落日以降）に当社株式の価値の希薄化が生じることを前提にして当社株式の売買等を株主または投資家の皆様が行うと、株価の変動により不測の損害を被る可能性があります。

大規模買付者については、対抗措置が講じられることにより、結果的に、その法的権利または経済的側面において不利益が発生する可能性があります。

c 対抗措置発動に伴って株主の皆様に必要な手続き

対抗措置として、例えば、新株予約権の無償割当がなされる場合には、割当期日における株主の皆様は、引受の申込みを要することなく新株予約権の割当を受け、また当社が新株予約権の有償取得の手続きをとる場合には、新株予約権の行使価額相当の金銭を払い込むことなく、当社による新株予約権の取得の対価として当社株式を受領することになるため、当該新株予約権に関する申込みや払込など等の手続きは必要となりません。

株主の皆様が、新株予約権の割当を受けるためには、新株予約権の割当期日までに、当社の株主名簿に記載または記録される必要があります。

これらの手続きの詳細につきましては、実際に新株予約権の無償割当を実施する際に、法令及び当社が上場する東京証券取引所の上場規則に基づき別途お知らせします。

d 新株予約権の譲渡制限

対抗措置として、新株予約権の無償割当がなされる場合には、当該新株予約権に譲渡制限を付すことを想定している為、新株予約権の譲渡に際しては当社取締役会の承認が必要になりますが、当社取締役会は大規模買付者による譲渡及び大規模買付者に対する譲渡以外は原則として譲渡を認める方針である為、大規模買付者以外の株主の皆様が法的権利または経済的側面において格段の損失を被るような事態は想定しておりません。

へ 本対応策の適用開始、有効期限、継続及び廃止

本対応策の有効期間は、3年間（平成24年6月に開催予定の定時株主総会終結時まで）といたします。以降、本対応策の継続（一部修正した上での継続を含みます。）に関しましては、その後の定時株主総会の承認を経ることといたします。

当社取締役会は、本対応策の有効期間中であっても関連法令、東京証券取引所が定める上場規則等の変更、またはこれらの解釈、運用の変更があった場合に必要と認められる範囲内で、独立委員会の承認を得た上で本対応策を修正または変更する場合がございます。

また、本対応策はその有効期間中であっても、株主総会において本対応策を廃止する旨の決議が行われた場合は、その時点で、本対応策は廃止されるものとします。

当社は本対応策の継続・変更・廃止等を決定した場合には、その旨を速やかに株主の皆様にお知らせします。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間の研究開発費の総額は13百万円であります。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設、拡充等のうち、当第2四半期連結会計期間に完成したものは次のとおりであります。

新設

会社名 事業所名	所在地	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	取得価額 (千円)	完成年月	完成後の 増加能力
(株)幸楽苑 東鎌ヶ谷店他2店	千葉県 鎌ヶ谷市他	ラーメン	店舗新設	(注)1 180,901	平成21年7月～平成21年9月	186席

- (注) 1 取得価額には、敷金10,000千円を含んでおります。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

当第2四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末に計画した重要な設備の新設についての重要な変更は、次のとおりであります。

ラーメン事業において、当社が当連結会計年度中に新設を予定してありました店舗について、12店舗の出店計画を、8店舗に変更しております。

これにより変更後の増加能力は、468席となります。

当第2四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画は次のとおりであります。なお、新たに確定した重要な設備の新設の計画はありません。

除却

会社名 事業所名	所在地	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	期末帳簿価額 (千円)	除却等の予定年月	摘要
(株)幸楽苑 小松店	石川県 小松市	ラーメン	店舗閉鎖		平成21年11月	注

- (注) 上記店舗の固定資産については、今後の収益回復の可能性が低いいため、前連結会計年度末において減損損失を計上しております。さらに、閉鎖によって見込まれる撤去費用等は、店舗閉鎖損失引当金を計上しているため、新たな除却等に係る費用等の発生予定はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成21年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成21年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	16,268,441	16,268,441	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	16,268,441	16,268,441		

(注) 提出日現在の発行数には、平成21年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の権利行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づく新株予約権

平成19年度新株予約権(平成19年9月12日付与)	
	第2四半期会計期間末現在 (平成21年9月30日)
新株予約権の数	8,120個 (注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	812,000株 (注)2
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1,188円 (注)3,4
新株予約権の行使期間	自 平成19年10月1日 至 平成22年9月30日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 1,188円 資本組入額 594円
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権者は、新株予約権の割当日時点において、当社又は当社子会社の取締役及び従業員の地位にあり、新株予約権の行使時点において、当社又は当社子会社の取締役、監査役若しくは従業員の地位にあることを要する。但し、新株予約権者が、当社又は当社子会社の取締役又は監査役を任期満了により退任した場合、当社又は当社子会社の従業員が定年等の事由により退職した場合、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は行使できるものとする。</p> <p>新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めないものとする。</p> <p>新株予約権の割当個数の全部又は一部につき新株予約権を行使することができる。但し、新株予約権の行使は、割り当てられた新株予約権の個数の整数倍の単位で行使するものとする。</p> <p>新株予約権の質入、担保権の設定その他一切の処分は認めないものとする。</p> <p>その他新株予約権の行使の条件は、当社取締役会の決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。</p>
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5
新株予約権の取得条項に関する事項	(注)6

- (注) 1 新株予約権 1 個につき目的となる株式数は、100株であります。
- 2 新株予約権の割当日後、当社普通株式につき株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。但し、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の付与株式数についてのみ行われ、調整の結果 1 円未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。
- 調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割・併合の比率
- 3 新株予約権の割当日後に、株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる 1 円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

- 4 新株予約権の割当日後に、当社普通株式につき、時価を下回る価額で株式を発行し又は自己の株式を処分する場合（会社法第194条の規定に基づく自己株式の売渡し、当社普通株式に転換される証券もしくは転換できる証券の転換（取得）、又は当社普通株式の交付を請求できる新株予約権の行使による場合を除く。）は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる 1 円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行(処分)株式数} \times 1 \text{株あたり払込金額}}{\text{新株発行(処分)前の 1 株当たり株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行(処分)株式数}}$$

- 5 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収合併、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第263条第 1 項第 8 号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権（以下、「再編対象会社新株予約権」という。）を、以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は再編対象会社新株予約権を新たに発行するものとする。但し、以下の条件に沿って再編対象会社新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

- (1) 交付する再編対象会社新株予約権の数
残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- (2) 再編対象会社新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 再編対象会社新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記 2 に準じて決定する。
- (4) 再編対象会社新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
再編対象会社新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ調整して得られる再編後行使価額に上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である株式の数を乗じて得られる金額とする。
- (5) 再編対象会社新株予約権を行使することができる期間
新株予約権の権利行使期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権の権利行使期間の満了までとする。
- (6) 再編対象会社新株予約権の行使により新株発行を行う場合において増加する資本金及び資本準備金に関する事項
増加する資本金の額は、会社計算規則第40条第 1 項に従い算出される資本金等増加限度額の 2 分の 1 の金額とし、計算の結果生じる 1 円未満の端数はこれを切り上げるものとする。
増加する資本準備金の額は、上記 に記載の資本金等増加限度額から上記 に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
- (7) 譲渡による再編対象会社新株予約権の取得の制限
譲渡による再編対象会社新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
- (8) 再編対象会社新株予約権の取得条件
注 6 に準じて決定する。

6 新株予約権の取得条項

当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約承認の議案若しくは株式移転計画承認の議案が当社株主総会で承認された場合（株主総会の承認が不要な場合には、当社取締役会の決議がなされた場合）、当社取締役会が別途定める日をもって、当社は未行使の新株予約権を無償で取得することができるものとする。

新株予約権者が新株予約権の行使の条件に該当しなくなった場合、当社はその有する未行使の新株予約権を無償で取得することができるものとする。

上記 及び の場合における手続は、当社が定めるところによる。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成21年7月1日～ 平成21年9月30日		16,268,441		2,661,662		2,608,070

(5) 【大株主の状況】

平成21年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
新井田 傳	福島県郡山市	3,618	22.24
有限会社エヌテイ商事	福島県郡山市大槻町字中野23 5	1,336	8.21
日東富士製粉株式会社	東京都中央区新川1 3 17	445	2.74
幸楽苑従業員持株会	福島県郡山市田村町金屋字川久保1 1	321	1.97
株式会社東邦銀行	福島県福島市大町3 25	321	1.97
株式会社大東銀行	福島県郡山市中町19 1	266	1.64
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1 8 11	231	1.42
アリアケジャパン株式会社	東京都渋谷区恵比寿南3 2 17	156	0.95
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1 1 5	150	0.92
岡田 甲子男	東京都大田区	130	0.79
計		6,977	42.88

(注) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 178千株

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成21年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 14,100		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式16,178,600	161,786	同上
単元未満株式	普通株式 75,741		同上
発行済株式総数	16,268,441		
総株主の議決権		161,786	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,300株(議決権13個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式2株及び証券保管振替機構名義の株式45株が含まれております。

【自己株式等】

平成21年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社幸楽苑	福島県郡山市田村町金屋字 川久保1-1	14,100		14,100	0.08
計		14,100		14,100	0.08

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	1,152	1,141	1,149	1,145	1,145	1,220
最低(円)	1,100	1,098	1,110	1,102	1,111	1,125

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

役員の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役内部監査室長	取締役店舗運営部 関西・東海地区担当部長	伊藤 修一	平成21年10月1日

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び前第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間(平成21年7月1日から平成21年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び前第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表並びに当第2四半期連結会計期間(平成21年7月1日から平成21年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,990,873	2,928,474
売掛金	147,533	163,173
たな卸資産	1 282,598	1 203,795
その他	763,389	739,165
流動資産合計	4,184,395	4,034,609
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2 4,773,330	2 4,825,992
土地	3,954,241	3,954,241
その他(純額)	2 1,892,606	2 1,762,310
有形固定資産合計	10,620,177	10,542,543
無形固定資産	145,523	147,821
投資その他の資産		
建設協力金	2,657,610	2,787,578
敷金及び保証金	2,198,810	2,220,979
その他	1,688,092	1,720,086
貸倒引当金	1,209	1,175
投資その他の資産合計	6,543,304	6,727,469
固定資産合計	17,309,005	17,417,835
資産合計	21,493,400	21,452,444
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,837,020	1,575,614
1年内返済予定の長期借入金	1,677,632	1,747,352
未払法人税等	601,164	490,472
店舗閉鎖損失引当金	23,626	-
その他	2,982,466	2,968,489
流動負債合計	7,121,909	6,781,928
固定負債		
長期借入金	4,051,748	4,877,564
その他	1,384,855	1,383,656
固定負債合計	5,436,603	6,261,220
負債合計	12,558,513	13,043,148

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,661,662	2,661,662
資本剰余金	2,658,098	2,658,098
利益剰余金	3,593,357	3,067,465
自己株式	19,530	19,530
株主資本合計	8,893,588	8,367,695
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	699	-
評価・換算差額等合計	699	-
新株予約権	40,600	41,600
純資産合計	8,934,887	8,409,295
負債純資産合計	21,493,400	21,452,444

(2)【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	17,138,828	17,808,358
売上原価	4,998,603	4,953,259
売上総利益	12,140,225	12,855,098
販売費及び一般管理費	11,193,201	11,558,583
営業利益	947,023	1,296,515
営業外収益		
受取利息	33,806	28,937
固定資産賃貸料	30,368	48,549
その他	44,987	63,933
営業外収益合計	109,163	141,420
営業外費用		
支払利息	45,247	51,633
シンジケートローン手数料	45,007	-
固定資産賃貸費用	-	43,284
その他	47,949	18,254
営業外費用合計	138,204	113,173
経常利益	917,982	1,324,763
特別利益		
投資有価証券評価損戻入益	20,139	31,885
その他	2,500	1,303
特別利益合計	22,639	33,188
特別損失		
投資有価証券評価損	-	18,992
減損損失	110,396	28,328
店舗閉鎖損失引当金繰入額	42,170	23,626
その他	24,935	3,471
特別損失合計	177,502	74,418
税金等調整前四半期純利益	763,119	1,283,533
法人税、住民税及び事業税	425,500	553,885
法人税等調整額	42,305	41,212
法人税等合計	383,194	595,097
四半期純利益	379,925	688,436

【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
売上高	8,831,048	9,412,312
売上原価	2,532,856	2,604,644
売上総利益	6,298,192	6,807,668
販売費及び一般管理費	5,606,795	5,863,501
営業利益	691,396	944,167
営業外収益		
受取利息	15,573	14,296
固定資産賃貸料	15,098	24,978
その他	11,944	23,785
営業外収益合計	42,616	63,060
営業外費用		
支払利息	25,162	25,030
固定資産賃貸費用	11,474	22,253
その他	20,473	8,758
営業外費用合計	57,110	56,042
経常利益	676,902	951,184
特別利益		
固定資産売却益	1,000	303
新株予約権戻入益	600	200
特別利益合計	1,600	503
特別損失		
減損損失	101,481	-
店舗閉鎖損失引当金繰入額	42,170	19,331
その他	10,232	7,076
特別損失合計	153,883	26,407
税金等調整前四半期純利益	524,618	925,280
法人税、住民税及び事業税	375,320	511,725
法人税等調整額	117,989	93,346
法人税等合計	257,330	418,378
四半期純利益	267,288	506,901

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	763,119	1,283,533
減価償却費	316,728	367,182
減損損失	110,396	28,328
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)	42,170	23,626
受取利息及び受取配当金	36,726	31,354
支払利息	45,247	51,633
シンジケートローン手数料	42,730	-
売上債権の増減額(は増加)	20,464	15,639
たな卸資産の増減額(は増加)	25,632	78,803
その他の資産の増減額(は増加)	68,025	5,159
仕入債務の増減額(は減少)	80,541	205,498
未払費用の増減額(は減少)	125,711	46,303
その他の負債の増減額(は減少)	139,189	122,475
その他	31,902	31,604
小計	1,204,704	1,825,876
利息及び配当金の受取額	11,743	3,078
利息の支払額	45,087	51,580
法人税等の支払額	394,250	443,935
その他の支出	-	1,479
営業活動によるキャッシュ・フロー	777,109	1,331,959
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	102,000	1,136,000
定期預金の払戻による収入	1,692,000	196,000
有形固定資産の取得による支出	440,935	210,304
投資有価証券の取得による支出	-	21,000
敷金及び保証金の差入による支出	73,345	25,312
敷金及び保証金の回収による収入	42,813	47,481
建設協力金の支払による支出	196,930	90,537
建設協力金の回収による収入	155,730	149,791
その他	16,838	8,310
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,060,494	1,098,192
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	-	53,287
長期借入れによる収入	1,500,000	-
長期借入金の返済による支出	631,776	895,536
社債の償還による支出	2,420,000	-
配当金の支払額	162,547	162,543
その他	145	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,714,469	1,111,367
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	123,134	877,600
現金及び現金同等物の期首残高	1,343,634	2,685,874
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,466,769	1,808,273

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日至平成21年9月30日)
(四半期連結損益計算書関係) 前第2四半期連結累計期間において、区分掲記しておりました「シンジケートローン手数料」(当第2四半期連結累計期間計上額2,730千円)は、営業外費用の総額の100分の20以下となったことから、営業外費用の「その他」に含めて表示しております。 前第2四半期連結累計期間において、営業外費用の「その他」に含めておりました「固定資産賃貸費用」は、営業外費用の総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結累計期間より区分掲記しております。なお、前第2四半期連結累計期間の営業外費用の「その他」に含まれる「固定資産賃貸費用」は、22,934千円であります。 前第2四半期連結累計期間において、特別損失の「その他」に含めておりました「投資有価証券評価損」は、特別損失の総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結累計期間より区分掲記しております。なお、前第2四半期連結累計期間の特別損失の「その他」に含まれる「投資有価証券評価損」は、14,582千円であります。
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係) 前第2四半期連結累計期間において、区分掲記しておりました「シンジケートローン手数料」(当第2四半期連結累計期間計上額2,730千円)は、重要性が減少したことから、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しております。

【簡便な会計処理】

当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)		前連結会計年度末 (平成21年3月31日)	
1 たな卸資産の内訳		1 たな卸資産の内訳	
商品及び製品	110,312千円	商品及び製品	76,910千円
仕掛品	6,277	仕掛品	8,571
原材料及び貯蔵品	166,008	原材料及び貯蔵品	118,313
2 有形固定資産の減価償却累計額		2 有形固定資産の減価償却累計額	
	4,320,997千円		4,016,239千円

(四半期連結損益計算書関係)

第2四半期連結累計期間

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。		販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
給料手当	5,165,091千円	給料手当	5,699,983千円
退職給付費用	65,204	退職給付費用	59,119
賃借料	2,345,840	賃借料	2,269,125

第2四半期連結会計期間

前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。		販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
給料手当	2,634,712千円	給料手当	2,885,419千円
退職給付費用	32,562	退職給付費用	29,463
賃借料	1,182,641	賃借料	1,130,682

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係		現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金及び預金	1,609,369千円	現金及び預金	2,990,873千円
預入期間が3か月超の定期預金	142,600	預入期間が3か月超の定期預金	1,182,600
現金及び現金同等物	1,466,769	現金及び現金同等物	1,808,273

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	16,268,441

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	14,102

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる 株式の種類	目的となる 株式の数(株)	当第2四半期 連結会計期間末残高 (千円)
提出会社	平成19年ストック・オプション としての新株予約権			40,600

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年4月21日 取締役会決議	普通株式	利益剰余金	162,543	10	平成21年3月31日	平成21年6月18日

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年10月29日 取締役会決議	普通株式	利益剰余金	162,543	10	平成21年9月30日	平成21年12月2日

5 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)及び前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

主たる事業である「ラーメン事業」の売上高、営業利益の金額が、全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める割合が、いずれも90%を超えているため、記載を省略しております。

当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

主たる事業である「ラーメン事業」の売上高、営業利益の金額が、全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める割合が、いずれも90%を超えているため、記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)及び前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)及び前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がないため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)

デリバティブ取引にはヘッジ会計を適用しておりますので、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

記載すべき事項はありません。

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
547.19円	514.79円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	8,934,887	8,409,295
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	40,600	41,600
(うち新株予約権)	(40,600)	(41,600)
普通株式に係る純資産額(千円)	8,894,287	8,367,695
普通株式の発行済株式数(千株)	16,268	16,268
普通株式の自己株式数(千株)	14	14
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式 の数(千株)	16,254	16,254

2 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額

第2四半期連結累計期間

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 23.37円	1株当たり四半期純利益金額 42.35円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 22.23円	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額

(注) 1 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期連結損益計算書上の四半期純利益(千円)	379,925	688,436
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	379,925	688,436
普通株式の期中平均株式数(千株)	16,254	16,254
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(千株)	835	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要		

第2 四半期連結会計期間

前第2 四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	当第2 四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 16.44円 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	1株当たり四半期純利益金額 31.18円 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額

- (注) 1 当第2 四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
- 2 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	前第2 四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	当第2 四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期連結損益計算書上の四半期純利益(千円)	267,288	506,901
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	267,288	506,901
普通株式の期中平均株式数(千株)	16,254	16,254
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第40期(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)中間配当については、平成21年10月29日開催の取締役会において、平成21年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	162,543千円
1株当たりの金額	10円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成21年12月2日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月12日

株式会社幸楽苑
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 尾形 克彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 押野 正徳 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 富樫 健一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社幸楽苑の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社幸楽苑及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月13日

株式会社幸楽苑
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 尾形 克彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 押野 正徳 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 富樫 健一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社幸楽苑の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成21年7月1日から平成21年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社幸楽苑及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。